

平成29年度防災教育モデル実践事業報告書

学校名 佐伯市立八幡小学校・佐伯市立彦陽中学校

I 学校の情報

1 学校規模

八幡小学校：学級数6 生徒数129人 職員数15人

彦陽中学校：学級数4 生徒数80人 職員数14人

2 分掌の位置づけ

防災教育モデル実践委員 18人

小中一貫教育・防災教育担当 八幡小学校：近藤 直美 彦陽中学校：津村 俊輝

3 地域環境

八幡小学校・彦陽中学校校区の八幡・西上浦地区は大分県の南東部に位置する。北は旧上浦町に隣接し、東に佐伯湾を臨む。

「佐伯市津波ハザードマップ」（平成25年3月作成）によると、南海トラフ巨大地震の発生に伴い想定される浸水域は、八幡小学校が1.0m以上～2.0m未満、彦陽中学校0.0m以上～0.5m未満となっている。しかし、児童生徒の通学路や居住する校区に目を向けると10.0m以上の想定がされている地域が広がっている。

II 取組のポイント

○家庭や地域と連携して、様々な場面を想定した防災教育を推進し、児童生徒の自助・共助・協働の意識に基づく「主体的に行動する態度」を育成していく。

○児童生徒が災害時に主体的な避難行動がとれるよう指導の工夫を図るとともに、児童生徒が地域を支える支援者となるべく意識を高めていく。

【1】自助・共助・協働の意識に基づく「主体的に行動する態度」を育成するための教育課程の編成と研究の推進

- ・防災教育の視点を取り入れた教育課程を編成し、指導者が防災意識を持って実践を重ねることによって、防災に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。
- ・総合的な学習の時間を中心に「防災について知り考えよう」「防災について考えを深めよう」「防災について探究し、実践しよう」のテーマのもと実践を重ね、防災意識を高めていく。

【2】防災意識の向上と災害時の実践につながる被災地研修・災害ボランティア活動

- ・仙台市・石巻市を訪問し、災害を自分事として考え、行動しようとする意識を高める。
- ・被災地訪問で得た知識や深めた考えを広く報告することによって、自ら率先して避難する力や災害時に支援者として活動しようとする意識、態度を育てる。

【3】児童生徒の地域を支える支援者としての意識を高めるための避難訓練の実施

- ・地域の防災士会との共同の避難訓練や地域の防災訓練に参加することにより、災害時の自らの行動の仕方について考え、日常の活動につなぐ。

III 具体的な取組

実施時期	計 画 事 項	
5月	佐伯市	第1回実践委員会
6月	八幡小・彦陽中	教職員研修
7月	八幡小・彦陽中	災害ボランティア関係者講話
7月	八幡小・彦陽中	地域の防災士会と連携した共同避難訓練
8月	八幡小・彦陽中	被災地研修・災害ボランティア活動（生徒・教職員）
8月	佐伯市	防災教育講演会
8月	八幡小・彦陽中	教職員研修
9月	佐伯市	第2回実践委員会
10月	八幡小・彦陽中	教職員研修
11月	八幡小・彦陽中	公開研究発表会
1月	佐伯市	第3回実践委員会

①被災地研修（仙台市、岩沼市、名取市、石巻市）

【8月21日(月)～23日(水) 小・中学校】

○被災地研修（仙台市、岩沼市、名取市、石巻市）

- ・小学生3名、中学生3名、引率者3名 計9名が代表団として参加し、石巻市立荻浜中学校との交流や雄勝ローズファクトリーガーデンでのボランティア活動、大川小学校の遺構見学等を通じて、被災当時の様子や復興の現状を、五感を通じて理解していった。今後の防災・減災に向けての意識が高まった。また、被災地において研修した内容を教育長へ報告した。



②地域の防災士会と連携した共同避難訓練

【7月19日(水) 幼稚園、小・中学校】

○小中合同高台避難訓練

- ・目的を避難経路・避難場所及び危険箇所の確認とし、万休院(35m)へ避難訓練した。経路上の危険リスク、経路の高度の低さ、線路・高圧線の存在などが課題となった。

○第2回防災学習

- ・避難訓練に引き続き、学校以外の場所で地震が起きた時は、どう対応すればよいかについて、小・中に分かれて、地域の防災士（西嶋真人さん・渡邊幸一さん・渡邊早苗さん・河野さん）、および消防署員の方々の講話を聞いた。命を守ることに、避難場所の確認の大切さを学んだ。



③防災教育授業実践（教職員研修）

<小学校>

【6月28日(水) 小学校】

○3年 総合的な学習の時間

- ・単元名「防災レンジャーになって防災について みんなに知らせよう」
- ・社会科の校区調べの単元とも関連付けながら、地域の防災施設などを調べ、それをもとに発表する学習を行い、全職員で研修を行った。

【6月29日(木) 小学校】

○6年 総合的な学習の時間 「防災について見直そう」

- ・6年生の防災教育に係る授業実践。

【7月4日(火) 小学校】

○3年総合的な学習の時間 授業

- ・6月28日に防災教育の一環として、防災士（渡邊早苗さん）を招いて、防災倉庫についての学習を行った。日ごろからの備えの大切さを改めて意識することができた。

【10月6日(金) 小学校】

○4, 5年 総合的な学習の時間「過去の地震や津波の被害について」

- ・地域の歴史に詳しいゲストティーチャー（野乃下静さん・矢野悦子さん）を招き、過去に海崎地区であった大津波の被害についての授業を写真や文章等を使って行った。自分の地域にも津波の被害が起こりうることを改めて実感することができた。



【12月21日(木) 小学校】

○4年総合的な学習の時間 授業

- ・これまでの防災学習のまとめとして、地域の高齢者、防災士、自治会などに呼びかけて、児童が学習しまとめた避難経路や安全な避難についてポスターセッションの形式で提案した。また、被災地への思いをこめて、「花は咲く」を合唱したり、自分たちが作ったお米でのおにぎりを振舞ったりした。約50名の参加者からは、「とてもよく学習している」「大人のほうがもっと真剣に考えないといけない」「もっと地域に広めてほしい」といった感想をいただいた。子どもたちが、主体的に学習し発表できたことで、自信を持ち、ふるさとの大切さ、ふるさとへの愛着を深める実践となった。



<中学校>

【8月24日(木) 中学校】

- 2年防災学習 ・地区の避難場所と備蓄倉庫の確認を行い、聞き取り調査を行う。
- 3年AED講習会
- ・防災実践力を高めるため、消防署の方を招聘し、救命救急の資格取得をめざした。



【8月25日(金) 中学校】

- 2年通学路の点検
- ・独自のハザードマップ作成のため、現地調査を行った。

【9月27日(水) 中学校】

- 1年防災学習
- ・「防災アンケート」の分析を5グループで行った。情報の収集、整理・分析に向け、今後の防災学習の見通しをもたせた。

【12月20日(水) 中学校】

- 1年防災学習
- ・これまでの学習を踏まえ「家庭へのメッセージ」をそれぞれ作成しているので、それを伝えているかどうかの確認と公開授業のめあての確認などを課題に授業を行った。

④地域・行政・家庭との連携（実践委員会等）

【5月29日(月)】

○防災教育モデル実践事業 第1回実践委員会

- ・行政・消防・警察・区長等の委員の他、専門家として学校防災アドバイザー、および指定校の代表が集まり開催。実践事業の趣旨説明と八幡小学校・彦陽中学校の防災教育にむけ、課題および実践計画が確認された。また、地域・行政との連携の必要性を確認し合うことができた。

【7月6日(木) 小学校】

○親子防災教室

- ・学期末PTAに合わせて、大分大学小林准教授による、講演をおこなった。家庭内での危険箇所や地震津波時の避難方法や非常持ち出し品などについて、楽しく学習することができ、保護者の防災意識も高めることができた。

○救急救命法講習会

- ・期末PTA時に保護者対象に行った。消防署員から心肺蘇生法の説明を受け、実際に体験することができた。夏休みを前に、水難事故等に対する意識を高めることができた。

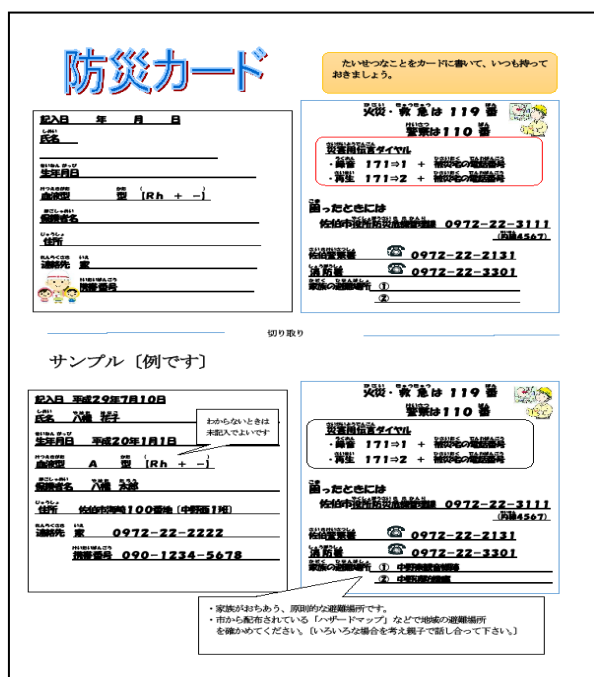
【7月上旬～夏休み 小学校】

○防災カード

- ・家庭にいるときに、家族が避難する場所などを確認することができた。緊急連絡先や避難場所などをカードに記入して、子どもたちがいつでも見られるように、カバンなどに入れ、非常時に備える取組を行った。

○引き渡しカード

- ・非常災害時に、避難所から児童を安全に引き渡すために、連絡先や引き渡す人などをカードに記入し、学校で保管して、非常時に備えている。



防災カード

たいせつなことをカードに書いて、いつも持っておきましょう。

記入日 平成29年7月10日
 氏名 八幡 裕子
 家族構成 平成29年1月1日
 年齢 A 男 (R h + -)
 学年 小学 2年
 住所 佐伯市佐伯100番地(中野第1区)
 連絡先 家 0972-22-2222
 携帯電話 090-1234-5678

災害・救急時 119番 警報 110番
 災害情報ダイヤル
 ・消防 171⇒1 + 消防の地域番号
 ・警察 171⇒2 + 消防の地域番号

あったときには
 佐伯市消防団本部 0972-22-3111
 消防署 0972-22-2131
 消防団 0972-22-3301

サンプル【例です】

・家族が複数あり、目的的な避難場所です。
 ・市から配布されている「ハザードマップ」などの地域の避難場所を確かめてください。(いろいろな場合を考えた親子で話し合ってください。)

児童・園児引き渡しカード 平成29年度

佐伯市立八幡小学校・幼稚園

児童氏名	年 ()
保護者名	
自宅電話/携帯電話	(自宅) (携帯電話)
勤務先/電話番号	
住所	地区名()
兄弟姉妹	学校、(園) 年 組 名前
	学校、(園) 年 組 名前
	学校、(園) 年 組 名前
	学校、(園) 年 組 名前
緊急時連絡先 (氏名・関係)	①(氏名) (関係) (連絡先) (勤務先) Tel.
※引渡し可能な人	②(氏名) (関係) (連絡先) (勤務先) Tel.
	③(氏名) (関係) (連絡先) (勤務先) Tel.

避難した日にち	月 日 () 時 分
引き渡した人	
引き渡した日時	月 日 () 時 分
引き渡しを確認した職員	

【9月21日(木) 中学校】

○ボランティア清掃

- ・台風による水害により、通学路の一部にも流木や土砂が流れ込み、通学するのに不便なところがあった。生徒の方から、自分たちでも何か地域に貢献したいという意識を持ち、流木等の片付けのボランティア清掃を行った。



【10月16日(月)】

○防災教育モデル実践事業 第2回実践委員会

- ・八幡小学校・彦陽中学校における半年間の防災教育の取組の経過が報告され、意見交換が行われた。今後の地域防災の在り方が確認できた。

【11月12日(日)】

○佐伯市地域防災訓練への参加

- ・第2回実践委員会において、自治会長などから佐伯市地域防災訓練に子どもたちも積極的に参加を促してほしいという要望があった。これまで保護者も含めて、参加率が低い現状があった。そこで、事前に保護者に呼びかけるとともに、児童生徒にも事前指導を行った。併せて、ワークシートを配布し、当日一緒に参加した家族、場所、訓練内容、参加したときの感想などを記入し、学校に提出するように指導を行った。結果は中学生72%、小学生64%の参加であった。これまでと比べ、参加者が増え非常に有意義な訓練となったようである。



⑤公開研究発表会

【11月28日(火)】

報告 「被災地研修に参加して」 八幡小学校児童3名 彦陽中学校生徒3名

提案1 「小中一貫教育の取組を基盤として」 八幡小学校

提案2 「防災意識を高め実践力を育む防災教育の取組」 彦陽中学校

提案授業

八幡小学校 4年 国語「子ども防災士になって、調べたことを地域の人に伝えよう」

5年 英語「What do you want?」

～My防災バックに必要なものをそろえよう～

彦陽中学校 1年 総合的な学習の時間

「家庭に必要な防災準備を知らせよう」

- ・管内外の教職員、地域住民、実践委員会、防災士会、保護者など約110名の参加があった。各学年とも、これまでの学習を踏まえ、主体的に学習したり、発表したりする姿が見られた。

全体会において、防災教育アドバイザーの小林祐司大分大学准教授の指導助言をいただいた。また、地域代表、保護者代表から、防災について日ごろ考えていることや日常の備えについて、地域の防災の取組、学校教育に期待することなどの意見発表があった。

子どもたちのこれまでの取組のすばらしさ、地域、保護者への啓発、各教科と総合的な学習の時間との関連を図った防災教育に係る教育課程の編成など、高評価をいただいた。



⑥避難経路整備のための行政への要請活動

○これまでの学習や避難訓練などから児童生徒たちが考えた学校からの避難経路整備について、提言書の形で要請をする活動を行う。

【2月7日】第1回現地調査・・・小中学校別に避難ルート案を作成。

【2月15日】第2回現地調査・・・小中合同で避難ルート案を決定。

【2月20日】提言・要望書提出・・・市役所訪問。児童会生徒会代表による提言。

【2月中】自治会への陳情依頼・・・八幡地区、西上浦地区自治会長より関係諸機関への陳情を依頼。

<提言書>

佐伯市防災局長 様

11.28 「大分県防災教育モデル実践事業公開研究発表会」における提言・要望

30年以内に南海トラフ大地震が発災する可能性が高く、適切な避難場所・避難ルートを早急に確立する必要があります。

これまで、2回の避難訓練（学校の屋上と避難場所指定の万休院）と東北被災地訪問を通して、以下の課題がみえてきました。

- (1) 校舎の直上避難では、屋上を超える津波には対応できないし、地続きでないため孤立する可能性が高い。
- (2) 万休院への避難経路は少し遠いし、橋、鉄道横断の危険性や窪地を通るため避難途中で流されたり、ルート上で建物が崩壊したりするリスクも高い。
- (3) 万休院へ幼小中児童生徒が避難した場合、地域住民が避難できるスペースがなくなる。
- (4) 東北被災地訪問で、地元の方から、「まずは高台へ避難をすること」が命を守ることと言われました。

以上の課題を踏まえ、

「児童生徒の避難ルート・避難場所は、学校の裏山が最も近く、即座に逃げるには適切だと思います。学校裏に避難ルート・避難場所を設置する」ことを提言・要望します。

平成30年2月20日

佐伯市立八幡小学校児童会長

宮本 康輝

彦陽中学校生徒会長

上杉 叶和

Ⅳ 成果と課題

八幡小学校と彦陽中学校の両校で、小中一貫した中で、児童・生徒の防災意識と防災実践力の向上に向け、これまで取り組んできた。5月当初に比すれば、10月時点の児童・生徒の防災意識・実践力は総じて高まっているととらえている。その高まりには、小・中合同の取組のほか、総合的な学習を核とした取組、地域教材を扱い、地域人材を生かした授業などの取組が効果的であったと考えている。

カリキュラム・マネジメントを意識した教育課程を編成し、各教科と総合的な学習の時間との関連をはかった指導計画や授業などを一つの形にできたこと、児童生徒に地域を知り、地域を思い、地域を大切にしようとする気持ちを醸成できたことは大きな成果である。また、2月には、児童生徒が考えた学校周辺の避難経路を市役所に提言する予定である。

今後は、付加・修正を重ね、取組を継続していくが大切である。これからもより実践的な態度を育てていく必要がある。

Ⅴ 今後の予定

- 第3回実践委員会（1月16日）
- 児童生徒の防災についての意識調査（2月）
- 小学校避難訓練（ユレルンダーの活用による体験活動 2月14日）
- 提言にむけた避難経路の確認（2月15日）
- 児童生徒による避難経路提言（2月20日）
- 中学校避難訓練（火災）（3月13日）